

和名倉百年の森

wanagura hyakunen no mori

NPO 法人百年の森づくりの会

2021
4.1

41号

＜創立 20 周年記念誌＞ 巻頭言…………… 1 / 20 周年記念誌に寄せて…………… 2-3 /
故内藤理事長の思い出…………… 4 / 故内藤理事長の軌跡・写真…………… 5-6 /
「百年の森」と持続可能性…………… 7-8 / 森づくりに参加して…………… 9 / 百年の森創立
20 年を迎えて…………… 10 / 活動の記録…………… 11-15 / 年間スケジュール…………… 16

東日本大震災から十年経って

理事長 小林 公彦

2011年3月11日午後2時46分に発生した東日本大震災から10年が経過しました。皆様方はその時どこで何をされていましたでしょうか。

私は当時ある経済団体職員でした。当日会議が3時から始まる直前でした。突然グラグラと今まで経験したことのない大きな揺れがきて、驚愕すると共に大変なことになるなければ良いがと思いました。会議は予定通り始まりましたが、出席者は会社経営者の方々でしたので、それぞれ会社とのやり取りで結局会議にならなかったことを思い出しました。その後、テレビの放映であまりにも悲惨な状況を目にした時の衝撃の記憶が蘇ってきました。

東日本大震災では、関連死を含めて19600人の命を奪い、まだ2528人の方の行方が分かっていません。一瞬のうちに多くの犠牲者が出たこの大震災はいかに大きな大惨事だったということを知らされました。

実は、昨年から新型コロナウイルスの感染の恐怖と収束の見えない不安から、私は東日本大震災の記憶が少し薄れていたかもしれません。今年に入り、東日本大震災の新聞報道やテレビで特集番組が

放映され、改めてその時のことを思い起こすことが出来ました。

昨年12月に全国16歳以上3600人を対象にNHKの世論調査の結果が出ていました。その結果によると、全体の3割近くが津波による被災地の復興が「進んでいない」と感じており、また原発事故の除染が「進んでいない」と回答した人は6割を超えていました。また、10年が経過する中、被災地の現状を見聞きすることがどの程度あるかを尋ねたところ、見聞きすることが「ない」と回答した人が、津波の被災地については52%、原発事故の処理については59%と過半数を占めました。東日本大震災の復興は長期的視野にたって支援していくことが大切であり、風化させないことが大事であると痛感しています。

百年の森づくりの会では、東日本大震災の復興支援を目的に、震災による東京電力の原発事故で放射能汚染された福島県田村市の森林の伐採地に新たな森づくりをするため、2014年4月坂本和穂2代目理事長のリーダーシップにより50名の参加を得て、長瀬苗畑で育てたブナやミズナラなど1350本の苗木を植栽しました。

会報第40号の中で守谷裕之副理事長が活動記録を記載しておりますが、その中に田村市の植栽地と守谷氏の自宅の放射線量測定値の掲載があります。ブナの根元の放射線量は依然として高いことが分かります。

福島県では原発の影響が大きく他の県より復興が遅れていると言われております。そんな中でも相馬市、南相馬市、いわき市などでは、「災害から命を守る森づくり」として、緑による防潮堤、海岸林などの長期プロジェクトが進んでいるようです。福島県富岡町は桜の名所ですが、枯れてしまった桜の補植も進められています。インフラ整備は着実に進んでいます。地震や津波など自然の猛威と共生するための「森づくり」を進める事も大切であると感じています。

福島県田村市で行った「百年の森づくり」もおかげさまで苗木は着実に育っています。田村市の森づくり活動も風化させず後世に語り継いでいきたいと思えます。今年も新型コロナウイルスの影響で活動が思うようにいきませんが、感染防止に努めつつ、これからも地道に活動してまいります。

百年の森づくりの会二十周年記念誌に寄せて

理事
坂本和穂

百年の森づくりの会二十周年を迎え本当におめでとうございます。

光陰矢の如しとはよく言ったもので、8年前の秋口に現在の百年の森の小林理事長から要請を受けて、百年の森の理事長を引き受けることになった。当時、初代の理事長の内藤勝久氏が不慮の事故で亡くなり、他の理事の皆さんも仕事の都合で理事長は難しいとのこと、ここに山に登れない新理事長が誕生したわけである。

理事長として約3年間、特に役に立つ事をしたとは思えないがその中でも最大の思い出は福島県田村市の東日本大震災復興支援のための植林計画に関わった事である。

当時、福島県は「ふくしま森林再生事業」をスタートさせ放射能物質の低減、拡散防止と森林整備事業に取り組んでいた。田村市周辺では除染間伐を積極的に行っていたが伐採後の植栽まで手が回らず、そこで当

会が協力して伐採跡地に百年の森づくりの会の苗を秩父から運び植えることになった。

2014年4月6日約50名の皆さんと一緒に貸切バス1台で植樹のための日帰り作業に出発した。

森林組合事務所の近くで目に付くのは放射能を測定する線量計があり、大気中の放射能により毎日その数値が変わるそうである。

最近の新聞で知ったことだが今でも、除染作業を行なう「再生プロジェクトチーム」が活動しているようで、恐らくまだ毎日線量計も活躍していることを知った。

4月6日はさいたま市周辺では桜の季節であったが田村市の我々が作業する山々にはまだ粉雪が舞う中での作業であった。

植栽後の状況はブナ280本、ポット苗1070本が現在大きく育っているとの報告を受けており嬉しいかぎりである。



福島県田村市「森づくり」
右 坂本和穂 理事



熱心に説明を聞く
森づくりの参加者

後日談だが当会も財政は豊かではなかった。当時某企業が植栽事業に対して補助金を出してくれるという事で45万円の補助金を当てにしていたところ、某大学教授から横槍が入ったため駄目になり非常に困った。理由は、埼玉の苗木を福島へ持ち込むと生態系が変わるから駄目だという事であった。仕方がないので後日、小林さんや小室さんと知り合いの会社に寄付をお願いに歩いた事を今でも懐かしく思い出したものである。

また、当会の年中行事の一つに有識者の講演会を年数回開いている。私たちにも非常にためになる話が多かった。その中の一つに、2013年6月の総会の際に「森林が日本を元気にする」という題で当時の林野庁林政部長末松広行氏に記念講演をお願いした。末松氏は昨年7月まで農林水産省の事務次官を務められた人である。

講演の中で特に印象に残ったのは日本の国土の67%が森林であり、その面積は2500万haでその森林率は150年変化なしという事でOE

CDの中でも3番目に森林率が高い国である。しかし、森林の面積は変わらないが昭和40年台の森林蓄積量は18億8700万立方メートルから平成25年では49億立方メートルになった。木の量が2.6倍になっていった。戦後50年の今、日本の森林の木は切りどきだが、なぜ切らないかというのと木を使ってもらえないからである。2013年当時の日本の住宅は6割が木材でその中で日本の木が使われている割合はその3割である。日本の木よりも輸入材を使っている家が多いのである。せっかく売実期を迎えた日本の木は切っても売れないのである。末松氏も非常に残念がっていた。

しかしながら現在でも依然として住宅用木材は輸入材を使うことが多いのだが、最近では国産材への新しい取り組みが始まったようである。その一つに中国木材㈱「本社、呉市」がある。

この会社は国内のトップシェアの製材メーカーである。ベイマツの産地の北米と自社工場を大型原木船で直結して住宅用構造部材の「乾燥

材」…ドライビーム、「集成材」…ラミナビームと国産杉の組み合わせた「異樹種集成材」…ハイブリッドビームを製造して全国展開している。今まで衰退の一途をたどった国産材も国内杉も十分な保有量を見込めることからハイブリッドビームとして生き返り積極的に活用し経済価値を高めているという。杉は空気を多く含んでいるので、乾燥性が高く人気となり、林業の活性化に役立っている。

私も百年の森づくりの会に関係してから、テレビなどで森の話が出るに興味をもってテレビ放送を見るようになった。その一つに、テレビ朝日の日曜日午後7時58分より放送する「ポツンと一軒家」という番組がある。今年の1月3日放送の番組で埼玉県北部と群馬県との県境に近い山奥に「ポツンと一軒家を発見」という放送があった。その内容は一人暮らしの老人が埼玉北部の山の森を守っているが、下草刈りとか間伐とかが段々とできなくなった。そこで若者のグループが立ちあがり老人を援助して森を守るという内容の番組で、久しぶりに熱中した。埼玉森林

サポータークラブと老人の家「クルミ小屋」との交流という素晴らしい番組であった。百年の森づくりの会も同好のグループを全国的に広げたいと願うものである。

終わりに百年の森づくりの会の

益々の発展を祈念して筆を置きた

い。



故内藤勝久 初代理事長の思い出



副理事長 東

克明

埼玉大学ワンダーフォーゲル部(略称SWV)の大先輩内藤さんと凡そ一廻り若輩の私がお話しさせて頂く機会が増えたのは、私が建設会社の地方支店から関東に戻った1996年前後からでした。その当時、内藤先輩は2年前に同部OB会の会長に就任され、1996年のSWV創部40周年の記念事業として、『水を育む山への恩返し』の思いから始まった百年の森づくり活動の黎明期を牽引していました。

任意団体百年の森づくりの会が設立された2000年から2007年度まで百年の森づくりの会の会計を担当し、森づくりのワークは1997年10月、SWV OB会時代の第1回ワークでの作業道作りから参加させて頂きました。作業道作りは、1964年山火事で荒地となった和名倉山の標高1950m付近の斜面まで大洞林道から山道を造成する計画で、笹竹が密集したヤブの斜面に慣

れない草刈り鎌とエンジン草刈り機で道を作る作業で、なかなか進捗しませんでした。現役のSWV部員(当時)とOB達が、深雪をラッセルする

ごとく交代でヤブの刈払いをする現場にはいつも内藤先輩の姿がありました。夜になると、松葉沢の出会い付近の林道に幕営し和名倉山塊の尾根で狭められた星空の下、チロチロ燃えるファイアーの火を囲む輪では内藤先輩の昔話などを聞かせて頂きました。その場で内藤先輩は、この作業道を作り上げられるかを地元の方々は見守っていて、ある意味では百年の森づくりの活動の真剣さが試されている、植林活動は単に樹を植えるだけでなく地元の人々との交流へと繋がなければならないと、静な口調で私達に語り掛けておられました。上部の植生が密でなくなったこともありましたが、ロマンを語るとともに常に現場の仲間とあり続けた内藤先輩がおられたことが、20

00年という早期に山道が仕上がった結果だと思っています。

内藤先輩は後輩の面倒見がよい方でもありました。地方勤務では、地元財界人との交流と共にその地のSWV後輩達にも御自分から声をかけられたと聞いています。右は、私達SWV同期(あざみ会と称す)が内藤家の柵山房で新年会を開催させていただいた時の写真で、同期だけでなく、年代が近い前後のOB達も集まりました。奥様にも大変お世話になった思い出があります。

後輩たちを引き付ける魅力のような魅力を持った大先輩でした。



内藤御夫妻と後輩のSWVOB達、柵山房にて 1996.1.20

故 内藤勝久 初代理事長の軌跡	
1996年10月	埼玉大学ワンゲル創部40周年記念事業始まる コンセプト「水を育む山への恩返し」雲取山グリーン山行
1997年10月	第1回和名倉山でスズタケを刈りルート作業を行う。「百年の森づくり」と命名
2000年6月	「百年の森づくりの会」設立総会
2000年11月	埼玉大学内百年の森テラス設置。大滝村から村の木「トチノキ」を植樹、村の石「山波石」を設置。以降、百年の森づくりの活動状況を展示。 毎年11月に会員及び学生・一般との方々との交流会を実施。
2001年5月	第1回通常総会開催。記念講演会には、今は亡き登山家田部井淳子さんが講演。 参加者170名
2001年6月	和名倉山仁田小屋尾根にて第1回植林を実施。13本のブナ苗木を植樹。 植樹場所を「一步の森」と命名。参加者36名
2002年4月	荒川源流森づくり体験「大血川太陽寺植林」を実施。苗木302本植樹。 参加者110名
2003年4月	中津川山吹沢県有林植林実施。苗木630本植樹。参加者35名
2003年7月～10月	和名倉山の活動中継地として仁田小屋の建設に着手し、10月に完成。 この間約50日間、延べ530名の方々に協力をいただきました。
2005年4月	埼玉大学エコサロン活動スタート。「百年の森テラス」を利用して、百年の森づくりの会の 情報発信基地として、会員・学生・教職員並びに市民が集う場づくりとして開設。
2007年8月	10周年記念として、中津川キャンプ場にて、「秩父の森感謝祭」を実施。参加者55名
2007年10月	長瀬宝登山百年の森づくり「植樹祭」実施。宝登山ロープウェイ山頂南西下県造林に苗木 855本植樹。参加者400名
2007年11月	「百年の森づくりの会」NPO法人設立臨時総会開催。以降NPO法人として活動。
2008年～2009年	NPO法人に昇格したのを機に、荒川本支流すべての水源林に「百年の森づくり活動」を提 唱し、他団体へ幅広く啓蒙活動を実施。 県立高校や県内企業で広まり、県立浦和高校・浦和第一女子高校・熊谷高校などで植林 活動を実施。また、日本信号(株)、(株)ヤオコーなど企業への影響も与えた。
2009年9月	荒川源流域の将来の環境を考える「秩父シンポジウム 森を語る」を開催。 基調講演に、牡蠣の森を慕う会代表の畠山重篤氏に「森は海の恋人」と題して講演。 その後、荒川源流域の森林や水に関わっておられる各専門家のパネリストの皆さんと地 元中学生の皆さんによるパネルディスカッションを開催。大きな反響があった。
2011年3月	百年の森づくりの会の活動が第12回埼玉環境賞を受賞。今迄の活動が評価され、埼玉新 聞に「ペアで進む森づくり」と題して上田知事ほか5名による座談会に内藤理事長も出席し、 特集記事が掲載された。また、テレビ埼玉にも出演。
2012年6月	NPO法人設立5周年記念シンポジウム開催。「鹿の食害を考える」。基調講演に日本オオカ ミ協会会長丸山直樹氏。その後、コーディネータに当会理事浅野純次氏、環境や森林の専 門家4名にてパネルディスカッションを開催。参加者120名
2012年8月4日	北アルプス燕岳より下山途中で滑落し、急逝。

在りし日の内藤勝久 初代理事長



和名倉山第1回植林にてブナ苗を運ぶ



2001年6月 和名倉山第1回植林



和名倉山仁田小屋開き



2007年10月 長瀬宝登山植樹祭



長瀬宝登山苗畑 会員と共に

「百年の森」と持続可能性

理事 浅野 純 次

「百年の森づくり」という名の会は日本、いや世界広しといえども、ほかには例がないのではないか。そう思いながら「和名倉百年の森」が毎号届くのを楽しみにしています。実際、「百年の森づくりの会」で記念講演をしてくださった安田喜憲さんや松本健一さん（故人）から「いい名前の会だね」と言われたことを思い出します。

その「百年の森づくりの会」もすでに21年目に入り、「和名倉百年の森」も創刊20年目を迎えたとか。よくぞがんばってきたものと感服するばかりです。まさに気宇壮大、長い目で森を育てていく活動が始まったについては、初代理事長を務めた内藤勝久くんの存在抜きには語れないと言っているのでしょうか。

2013年4月の「和名倉百年の森」第25号は追悼特集として彼をしのぶ仲間の皆さんのとてもいい文章が並んでいます。会員として今後

折に触れて追悼文を読み直し、彼の志を継承していくことが大事ではないかと思っただ次第です（なお私は65年前、彼と高校で同じクラスだったので本当は呼び捨てなのですが、ここでは故人に敬意を表し敬称を使わせてもらうことにします）。

内藤くんは植林を進めるなかで鹿の害のひどさに困り果てていたようで、「オオカミ復活」を主張していた日本オオカミ協会の丸山直樹会長

を訪問するので一緒に行こうと誘われた帰り、「やつぱりオオカミの力を借りるしかないかなあ」とつぶやいていたことを今でも思い出します。

そのことがきっかけとなり、2012年に丸山さんに基調講演をお願いするとともに、「鹿の食害を考える」と題するシンポジウムが開催される

こととなります。そして、それからわずか2カ月後に北アルプスで内藤くんが亡くなったという悲報が届きました。驚くばかりで、言葉もありませんでした。シンポジウム報告書に、彼の遺書ともなった序文が掲載されることとなったのもいまだに口惜しく感じられます。

とはいえ会としても

前へ進んでいくことが求められます。後を継いだ坂本和穂前理事長、小林公彦現理事長お二人の、会の存続、発展のために果たされた功



シンポジウムコーディネータ 浅野純次理事



シンポジウム 「鹿の食害を考える」

績は極めて大きなものがあり、和名倉から長瀬、福島と活動の場が広がり定着してきたことや、毎年、とても良い多様な講演会が設定されているのはすばらしいことだと思います。

ただ今後、会の事業をどう見直し、展開するかも一方で問われているのではないでしょうか。後期高齢者と言われる身となった立場からすると、個人的には手近な森、たとえば場所によって荒廃が言われる見沼の雑木林などを散策して、森と野鳥を育てる活動にヒントと気力をもらえたらなどということも夢想しています。

「百年の森づくりの会」としては、会員の高齢化に直面して、課題を一つずつ乗り越えていくことが求められていると思います。とくに若い世代に関心をもってもらい、活動に加わってもらいにはどうしたらよいか。この難題にどう取り組んでいくべきか、知恵を絞らないといけません。若い世代としては高校生や大学生、社会人も大事ですが、長瀬で行われてきた小中学生を主な対象と

したドングリ拾いや植物観察のような、森に関心を持ってもらう場作りが、県南でも行えればなどと思ったりもします。

そして若い世代といえはやはりSNSでの発信などにも必要なのではないかと。会員向け会報誌の発行にとどまらず、誰もが立ち寄れるネット上で情報や話題の提供ができることが望ましいのかとも感じます。要するに今の会員にとどまらず、埼玉の森に関心をもってくれる多くの若い人たちが緩くつながっていく場があればと思うのですが、どうでしょうか。

パンデミックのおかげでテレワークやワーケーションが広がっているなかで、かつての田園都市構想への関心が高まっています。秩父が仕事の間として脚光を浴び始めているとも言います。山や森が身近になる時代が案外、近いのかもしれない。「百年の森」のとりあえずのゴールである80年後に埼玉の市街地と自然がどのような関係になっているか、今この時点では、誰も想像はつかないはずですが。

しかし、この先、埼玉の山や川や

森がさらに豊かになっているように埼玉の自然を守っていく義務が、「百年の森づくりの会」に求められ続けることだけは確かでしょう。せっかく内藤くんとその仲間の皆さんが作り上げてくれた会です。一歩一歩、着実な歩みが続けていけるよう期待したいと思います。

具体的な提案を一つ、させてください。会員をつなぐ場としてはリアルな植樹活動には参加しない（できない）会員には「和名倉百年の森」が貴重な場となっていますが、この機関誌に会員の感想や思いや体験や何でもいいので、できるだけたくさん毎号、載るようにしてはどうか。そうなることで会員各自が活動に加わっている気分になるのではないのでしょうか。

長くても、あるいはほんの1、2行の短い文でもいいので（例えば雲取山に登ったとか、森を歩くのが趣味で孫と公園に行って銀杏を拾ったとか）、「会員の広場」とでもいうような欄をつくり、自己紹介したり語り合ったりという双方向の会員誌として発展してい

くことを期待したいと思います。会員同士の連帯感が増すことはとても大事だという気がしています。会員のつながりを強めて退会者を減らし新入会員を増やすなかで、名前に負けず百年、活動が持続することを期待したい。SDGsの時代にあつて百年の森づくりの会もサステナブル（持続可能）であることを求められているのではないのでしょうか。



シンポジウム 参加者

森づくりに参加して

理事 大熊光治

百年の森づくりの会10年誌「樹還」を読んでいた。牡蠣の森を募う会代表畠山重篤氏が2003（平成15）年5月11日総会で森と海との関係について講演を行っていた。森と海との関係は古事記にも登場している。しかし、理由がはっきりしないままに、この考えは薄れていった。1989年頃（平成元）気仙沼湾に赤潮が発生し、畠山重篤氏が養殖する牡蠣も赤潮を吸い込んで赤色の牡蠣になった。出荷できなくなった。畠山重篤氏は海をきれいにするために「森は海の恋人」のスローガンを掲げて気仙沼湾に流れ込む大川をきれいにすることにした。そのために大川の上流の室根山に木を植えることにした。その後、矢越山に移行した。今年で33年目になる。

畠山重篤氏の養殖場も甚大な被害を受けて植樹できないと考えた。矢越地区の人々の励ましで継続することになった。木を植える森は岩手県、牡蠣の養殖場は宮城県であり、そこを大川が流れている。関係者の会議を開き交流を深めてきた。森づくりの新たな草分けとなった「森は海の恋人」の活動は33年が経った。森づくりの活動と牡蠣の養殖は順調に進んでいる。

資源の生産性を高める政策を検討することになった。十三湖の北側に五所川原市の私有地があり、十三漁業協同組合の漁民たちは十三湖の生産性を高めるために4年前に木を植えたようだ。十三湖の北、東、南側に津軽の山々がある。十三湖に津軽の山から流れる岩木川、相内川、今泉川が流れ込んでいる。岩木川は白神山地の源流から流れ、途中岩木山からの河川も流れ込み全長102kmである。1978年頃（昭和23）、岩木川の源流付近を通る秋田県と青森県を結ぶ青秋林道が計画され、白神山地のブナ林を切り倒して作ることになった。この計画は関係者のご尽力で中止になった。そして、秋田県と青森県との関係者のご協力で1993年（平成5）世界遺産になった。白神山地は自然保護区になった。十三湖に生息するシジミの水源は確保されている。



長瀬宝登山下草刈り 左上 大熊光治理事

に木を植える活動の形態をまとめてみた。

- ・森に木を植える活動をNPO法人が行っている
- ・森に木を植える山の人々と下流で生活する人々が協力して森づくりを行っている。
- ・行政が中心になって、地域の各団体の協力を得て森づくりを行っている。
- ・計画から運営まで市民が中心になって行い、森づくりは民間組織の協働で行っている。

百年の森づくりの会 創立二十年を迎えて

理事 内藤 健 三

NPO法人百年の森づくりの会の創立20周年に際しまして、今まで同会の活動にご参加、ご賛同頂きました会員の皆様、及び会の活動に尽力して頂きました関係者の皆様に深く感謝申し上げますと共に、今後も引き続きご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

私は、2007年の宝登山の植樹祭より本会の活動に参加させて頂きました。当時は丸裸となった植林地の山の斜面を眺めながら、100年後にこの場所に木々が生い茂る情景を思い浮かべ、この壮大なプロジェクトの第一歩に携われたことに喜びを感じました。その後下草狩りに参加しながら、まるで我が子の成長を見る思いで、年々成長する木々を見て参りました。考えてみますと、2007年の植樹祭に参加した、当時小学校低学年であった私の息子も、今年成人式を迎え、10数年という歳月の進行の速さに驚くと共に、失われた自然を取り戻すことがいかに大変なことであるかを感じております。

ただ、植林地の保守作業ももちろん重要な作業ではありますが、次世代・次々世代へのバトンタッチも我々の重要な役割であると考えております。ここ1,2年本業（保険業）において企業の取引先を訪問する際にSDGsに関する話題が増えました。SDGs(Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略)とは2015年9月に国連で採択された、国際社会共通の17の目標ですが、最近大手企業だけでなく、中小企業の中でもSDGsを推進する企業が増えて参りました。また、多くの行政機関で、行政との取引業者をSDGsを推進する企業にシフトする流れに変わってきております。今後この流れが加速していった場合、SDGsの推進は企業にとっても企業存続のための重要課題になってくる

のではないかと考えております。話は若干逸れてしまいましたが、こういった社会情勢の中で、私たちの会の活動にご賛同頂ける企業、団体は今後益々増えていくと思われます。私の本業のため、会の活動に専念できないのは非常に残念ですが、今後は本業を通じて、百年の森づくりの会の積極的なPR活動を進めて参ります。

最後に私事ではございますが、3年前程より、久しく休止していた趣味の登山を再開致しました。昔はさほど気にしていなかった山の風景でしたが、広葉樹の生い茂る山は、四季の変化が感じられ心が落ち着くのを感じるようになりました。春は夏の緑の葉の濃淡、秋の紅葉、落ち葉を踏み歩く冬の登山と、四季折々の山の様相を感じられるのも、広葉樹の豊かな山であってこそだと思います。単に風景だけのことだけではなく、広葉樹の森が山の地盤強化、水質改善、地球の温暖化リスクの低減等、多くのメリットをもたらすことを考えると、百年の森づくりの会の活動がいかに意義のあることであるかを感じます。個人の力は微力ではございますが、本会の更なる発展に尽力して参る所存です。



2016年4月 長瀬宝登山ツツジ補植 中央下 子供と内藤健三理事

百年の森づくりの会 活動の記録

10周年記念誌「樹還」以降を掲載

総会記念講演会		
月 日	事 業	事業内容
2009年5月30日	NPO法人 第2回総会	「地球環境と森林」 気象予報士 村山 貢司氏
2010年5月30日	第3回総会	「日本の泥 西欧の石」 麗澤大学 教授 松本 健一氏
2011年5月29日	第4回総会	「森林・山村の再生から明日の日本を」 長野大学環境ツーリズム学部 教授 大野 晃氏
2012年6月2日	第5回総会 記念シンポジウム	鹿の食害を考える 基調講演：「オオカミ復活」 講師：一般社団法人 日本オオカミ協会 会長 丸山 直樹氏 パネルディスカッション：「鹿の食害を考える」 《パネリスト》 一般社団法人 日本オオカミ協会 会長 丸山 直樹氏 財団法人 埼玉県生態系保護協会 事務局長 堂本泰章氏 埼玉県森林協会 会長 栗原 慶子氏 埼玉県環境部自然環境課 副課長 玉熊 英一氏 《コーディネータ》 NPO法人 百年の森づくりの会 理事 浅野 純次
2013年6月2日	第6回総会	「森林が日本を元気にする」 講師：林野庁 林政部長 末松 広行氏
2014年6月8日	第7回総会	東日本大震災被害復興森林復旧事業支援活動 「福島県田村市 百年の森づくり」報告会 「放射能汚染と森林整備」 講師：福島県田村市 田村森林組合 前森林整備課長 吉田徳義氏 福島県田村市植樹活動報告 NPO法人百年の森づくりの会 常務理事 守谷 裕之氏
2015年6月7日	第8回総会	「木材活用とまちづくり」 講師：国土交通省住宅局 木材住宅振興室長 内田 純夫氏
2016年6月5日	第9回総会	「秩父の自然を知ろう ～秩父山地とニホンオオカミ」 講師：野外調査研究所 理事長 吉川 國男氏
2017年6月11日	第10回総会	「神の心と人の姿」 講師：寶登山神社 宮司 中山 高明氏
2018年6月3日	第11回総会	「神になったオオカミ～秩父山地のオオカミとお犬様信仰を知ろう」 講師：埼玉県立川の博物館 研究交流部長 大久根 茂氏
2019年6月2日	第12回総会	「ダムの歴史と変わる暮らし～よみがえる、水害の記憶と湖底の故郷～」 講師：埼玉県立歴史と民俗の博物館 学芸員 後藤 知美氏
2020年6月7日	第13回総会	新型コロナ感染防止のため 中止

シンポジウム		
2010年9月26日	秩父シンポジウム 「森を語ろう ～僕たち・私たちの 未来のために～」	基調講演：「森は海の恋人」 牡蠣の森を慕う会 代表 畠山 重篤氏 《パネルディスカッション》 「秩父の森づくりのために私たちにできること」 《パネリスト》 水資源機構荒川ダム総合管理事務所長 松枝 修治氏 埼玉県秩父農林振興センター長 大島 誠一郎氏 秩父市長 久喜 邦康氏 日本大学生物資源科学部 鍛代 邦夫氏 牡蠣の森を慕う会 代表 畠山 重篤氏 NPO法人百年の森づくりの会 理事長 内藤 勝久氏 《コーディネーター》 NPO法人百年の森づくりの会 副理事長 田島 克己

百年の森 ふれあいコンサート		
2009年8月30日	第8回コンサート	桐朋学園OB/OG5名の演奏とコール四季の皆さんのコーラス 百年の森づくりの会 パネル展示
2010年9月19日	第9回コンサート	桐朋学園OB/OG5名の演奏とコール四季の皆さんのコーラス 秩父高等学校音楽部の合唱 百年の森づくりの会 パネル展示 伊藤弥八氏の百年の森づくりの会の活動記録映画放映
2011年9月4日	第10回コンサート	桐朋学園OB/OG5名の演奏とコール四季の皆さんのコーラス 秩父高等学校音楽部の合唱 百年の森づくりの会 パネル展示 伊藤弥八氏の百年の森づくりの会の活動記録映画放映

長瀬苗畑作業・どんぐり拾い		
2009年 4月～12月	9回作業 参加者述べ63名	イヌブナ・ミズナラ・クヌギ・サワグルミなどの移植作業 除草作業 ブナ苗の冷凍保存作業 ミズナラのどんぐり採取・植え付け作業
2010年 4月～12月	7回作業 参加者述べ51名	イヌブナ・ミズナラ・クヌギ・サワグルミなどの移植作業 除草作業 ブナ苗の冷凍保存作業 ミズナラの実生苗採取・植え付け作業 よしず小屋増設 ブナ苗整根、整枝、植え戻し作業
2011年 4月～12月	4回作業 参加者述べ34名	イヌブナ・ミズナラ・クヌギ・サワグルミなどの移植作業 除草作業 ブナ苗の冷凍保存作業 ミズナラのどんぐり採取・植え付け作業
2012年 4月～12月	6回作業 参加者述べ38名	イヌブナ・ミズナラ・クヌギ・サワグルミなどの移植作業 除草作業 ブナ苗の冷凍保存作業 ミズナラのどんぐり採取・植え付け作業
2013年 5月～3月	7回作業 参加者述べ50名	除草作業 移植作業 福島県田村市の植林作業のためポット苗・ ブナ苗木の種別分け作業およびブナ苗280本、ポット苗1,070本の 搬送作業 ブナ苗400本植え替え作業実施

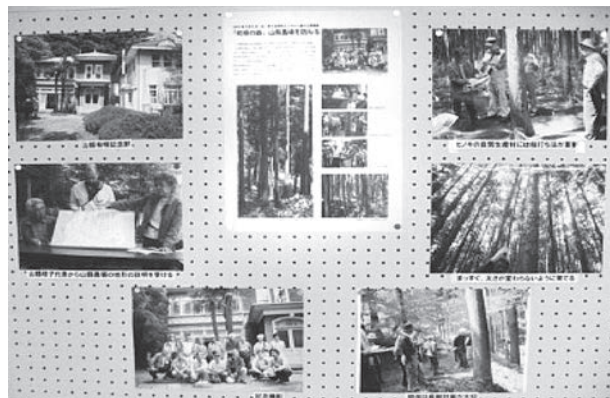
エコサロン・公開講座		
事業	月 日	事業内容
第9回春	2009年5月9日	「究極の森」栃木県矢板市山縣農場を訪ねる 指導：山縣 睦子氏
第10回冬	2009年12月12日	「根から考える環境問題」 講師：埼玉大学名誉教授 豊岡 了氏
第11回春	2010年5月8日	「清里高原 清泉寮フィールド体験」 指導：(財)キープ協会 参加者が少なかったため中止
第12回冬	2010年12月11日	「直根の力」 講師：信州大学農学部 特任教授 宮崎 敏孝氏
第13回春	2011年4月23日	「荒川河川敷秋ヶ瀬公園ピクニックの森」自然林観察会 指導：小室 正人氏
第14回冬	2011年12月10日	「森はエネルギーの宝庫・バイオマス」 講師：NPO法人 蔵前バイオマスエネルギー技術サポート ネットワーク 事務局長 米谷 栄二氏
第15回春	2012年5月13日	「日本大学水上演習林が育てたブナを見よう」 講師：日本大学生物資源科学部 教授 鍛代邦夫氏
第16回冬	2012年12月8日	「麗しき原生林～埼玉の巨樹・巨木～」 講師：さいたま巨樹の会 会長 原田 直示氏
第17回春	2013年5月19日	「丹沢の森を歩こう!～シカ食害で泣いている～」 指導：神奈川県自然環境保全センター 厚沢氏
第18回	2013年12月7日	「山岳映画への誘い」 講師：山岳映画サロン 代表 伊藤 弥八氏 上映内容：①「和名倉百年の森」 世代へ繋げ百年の森づくりの会 ②ヒマラヤトレッキング「悠久の山なみ」 ③ 「曾遊の山」燕岳
第19回	2014年11月8日	「本多静六 日本の森林を育てた人」 講師：茶の水女子大学名誉教授 遠山 益 氏
第20回	2015年11月7日	「秩父の風土と祭り」 講師：朽原嗣雄氏(民俗学)
第21回	2016年11月13日	「秩父地域に見る 山仕事の儀礼と禁忌」 講師：埼玉県文化財保護審議会委員 柳 正博氏
第22回	2017年12月16日	「秩父の成り立ちを知ろう ～和名倉山・長瀬宝登山そして荒～」 講師：埼玉県立自然の博物館 主任学芸員 井上素子氏
第23回	2018年12月9日	「秩父往還道志るべ」 講師：埼玉県立歴史と民族の博物館 主任専門員兼学芸員 杉山 正司氏
第24回	2019年11月10日	「荒川物語ー自然の荒川から都市維持装置としての荒川」 講師：NPO法人 水のフォルム 理事長 藤原 悌子氏
第25回	2020年12月6日	新型コロナ感染防止のため 中止

埼玉大学校内 エコサロン活動

毎月第四木曜日に百年の森テラスにサロンスタッフ(内藤勝久理事長、田島副理事長、石関明稔常務理事、吉田兼紀常務理事、岩波靖夫氏)が常駐。情報交流会実施。百年の森づくりの会の活動状況の紹介のため、埼玉大学大学会館に写真展示を継続実施。



埼玉大エコサロン展示



2009年 「究極の森」山縣農場を訪ねる展示



2012年5月 日本大学水上演習林ブナ林視察



2009年5月 「究極の森」山縣農場視察

百年の森交流会

埼玉大学大学祭(むつめ祭)に合わせて、埼玉大学校内の百年の森テラスにおいて毎年百年の森交流会を開催。百年の森づくりの会の活動の展示。会員ほか一般の方が多数来訪。

百年の森テラスは、10年後埼玉大学に返還したことにより、エコサロン活動及び交流会は休止した。



2000年11月百年の森テラス落成式



百年の森交流会開催風景

百年の森づくりの会 植林地 一覧表

植林地 面積 開始日	植林本数 (合計)	樹種 本数
和名倉山仁田小屋尾根 2.0ha 2001年6月8日	997本	ブナ838本 イヌブナ50本 ミズナラ108本 トチ1本
大血川大陽寺県造林 0.4ha 2002年4月29日	302本	ブナ22本 ミズナラ50本 コナラ60本 クリ50本 ヤマザクラ100本 トチ20本
中津川山吹沢県有林 2.2ha 2003年4月26日 2009年秩父百年の森に 管理委託	2,701本	ブナ647本 ミズナラ846本 イヌブナ137本 カツラ150本 ケヤキ100本 ヒノキ200本 ヤマザクラ100本 イロハモミジ150本 オオヤマザクラ100本 トチ21本 イタヤカエデ250本
長瀬宝登山県造林 0.97ha 2007年10月28日	1,561本	ヤマザクラ150本 カスミザクラ100本 オオヤマザクラ105本 コナラ50本 ヤマグリ100本 イタヤカエデ100本 ヤマツツジ150本 レンゲツツジ150本 ウリハダカエデ100本 エゴノキ50本 イロハモミジ50本 ブナ100本補植 カシ57本 カエデ13本補植 ツツジ160本 樺99本 檜22本 榎3本 楓2本
福島県田村市 0.8ha 2014年4月6日	1,350本	ブナ280本 コナラ・ミズナラ540本 イヌブナ440本 カエデ60本 クヌギ30本
合 計	6,911本	



和名倉山仁田小屋全景



仁田小屋落成 仲間の皆さんと記念撮影



2021年 活動スケジュール

活動への参加をご希望の方は、事前に事務局まで御連絡ください。

	総会・理事会	フィールド活動		エコサロン他
		和名倉	宝登山/太陽寺	
4月	■会報41号発行 ○4/19(月)常務理事会		◆宝登山 下草刈り作業 日時:4/11(日) 集合:9:00/宝登山 ロープウェイ駅前広場	
5月	●5/17(月)理事会 場所:未定	◆第45回和名倉山ワーク 日時:5/22(土)~23(日) 集合:8:30/西武秩父駅	◆宝登山 下草刈り作業 日時:5/9(日) 集合:9:00/宝登山 ロープウェイ駅前広場	
6月	■第14回通常総会・記念講演会 日時:6/6(日)午後2時00分から 場所:埼玉会館 開場 13:30 14:00~14:50 第14回通常総会 15:00~16:30 記念講演会 16:45~18:30 懇親会 ○6/20(日)常務理事会		◆宝登山 下草刈り作業 日時:6/20(日) 集合:9:00/宝登山 ロープウェイ駅前広場	
7月			◆宝登山 下草刈り作業 日時:7/11(日) 集合:9:00/宝登山 ロープウェイ駅前広場	
8月	○8/22(日)常務理事会		◆宝登山 下草刈り作業 日時:8/22(日) 集合:9:00/宝登山 ロープウェイ駅前広場	
9月				◎福島県田村市植林状況調査 日時:9/5(日) 行程:未定
10月	■会報42号発行 ○10/18(月)常務理事会	◆第46回和名倉山ワーク 日時:10/23(土)~24(日) 集合:8:30/西武秩父駅		
11月	●11/15(月)理事会			◆公開講座 日時:11/7(日) 会場:未定
12月	○12/20(月)常務理事会			

和名倉百年の森 第41号 2021年4月1日発行

発行者: NPO法人百年の森づくりの会 小林公彦

NPO法人百年の森づくりの会 事務局

〒330-0055 さいたま市浦和区東高砂町11-1 コムナーレ9階

さいたま市市民活動サポートセンター内 メールボックスA-71

TEL/FAX: 0480-22-3131

<http://www.100nen-forest.org> e-mail: info@100nen-forest.org